

校 園 長 室 か ら



学 校 教 育 目 標

共 に 学 び 共 に 伸 び る 子 ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和6年11月8日 第29号

秋はいずこ

昨日は、立冬。暦の上では立派な冬。それにあわせるかのように急に寒くなって、富士山の初冠雪のニュースが飛び込んできました。例年よりも随分遅いとか。ところが、木枯らし1号が吹いて、これは例年よりも早いそうで、地球温暖化もなんのこっちゃという思いに駆られます。

何度か集会で「季節を楽しもう」というお話をしました。

秋。いつのまにか終わってしまった秋。

秋になるとブラームスの交響曲第3番第3楽章を聞いて、ラフマニノフの交響曲第2番第2楽章でうっとりして、映画『ニューシネマパラダイス』のメインテーマを聞いて涙をこらえるのが通例でした。

目の前には、平安時代末期の歌人、西行の『山家集』。

「葉隠れに 散りとどまれる 花のみぞ 忍びし人に 逢ふ心地する」

なんてラブレターを送ったらどうなるのかと夢想してみたり……

「身を捨つる 人はまことに 捨つるかは 捨てぬ人こそ 捨つるなりけれ」と自分自身の今までを振り返ってみたり……

「昔見し 松は老木に なりにけり わが年経たる 程もしられて」と鏡に映る老け込んだ自分自身の姿を思い出しながら、茫然としたり……

そんな、静かな時間が秋にはあったのに、全く果たせていません。

家を建て替えたときに、狭い敷地に無理からに植えた金木犀も、いい香りがし始めたとき喜んでいたら、先日の雨で地面にオレンジの色を移してしまい、芳醇な香りとはお別れ。

気がつけば令和六年も終盤戦。最後にもうひとつ西行の歌。

「おしなべて 同じ月日の 過ぎゆけば 都もかくや 年は暮れぬる」